

札幌ドームにおける環境分析に基づく外構計画と環境啓発活動支援

活動場所

- ・位置……………札幌ドーム敷地内
- ・フィールドタイプ……森・草地・水辺
- ・面積……………約31ヘクタール



空から見た札幌ドーム

活動の目的

札幌ドームの予定地は住宅地と自然豊かな羊ヶ丘に隣接しており、設計条件として自然への配慮が求められていました。そこで、より多様な生物の利用する環境の創出を目的として、エコロジカルプランニングの手法を用い、そのための計画条件を提供し、生物に配慮した外構計画を支援しました。施設稼働後も、長期にわたるモニタリングを実施し、創出した環境が生物多様性に寄与していることを検証しています。

活動の内容

札幌ドームの建設計画では、周辺10km四方の環境調査を実施したうえで、出現する鳥類との関係性を定量的に解析し、多様な生物の利用する環境を創出するための計画条件を提供しました。計画段階に始まり、施設稼働時から今日に至るまで、動物相（鳥類・昆虫類）、植物相のモニタリングを実施し、計画の妥当性を検証しました。生物の種と種数を検証の指標とし、竣工年こそ鳥類の種数が計画段階に比べ少し減少したものの、2010年の時点では、指標とした鳥類の多くが確認できた他、鳥類、蝶、トンボの種類が全て計画段階より増加し、着工前よりも生物の多様性は高くなったと評価できました。

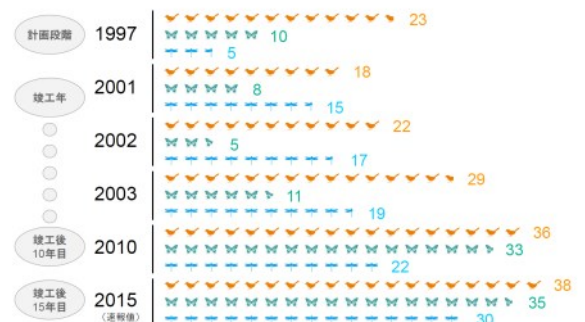
また、建設～モニタリングの取組みや結果を活かし、パンフレット作成やイベント開催等、札幌ドーム様の実施している環境啓発活動を支援しています。

今後の展望

札幌ドームで得られた知見・ノウハウを活かして、生物多様性を定量的に評価し可視化するツールとして「いきものコンシェルジュ」を開発しました。今後、他のプロジェクトに幅広く展開し、活用していく予定です。

一言コメント

外構計画の支援にエコロジカルプランニングを用いた札幌ドームのプロジェクトでは、環境の改変を伴う開発であっても、計画手法によって開発前よりも豊かな環境を創出することができました。今後も、より良好な環境創出を目指し、幅広く技術を展開して行く予定です。



生物確認種数の推移



環境啓発活動への協力例

実施体制

構成員：エコロジカルプランニング：大成建設(株)
 検証モニタリング：大成建設(株)、(株)札幌ドーム
 (2015年より共同実施)
 環境啓発活動：(株)札幌ドーム、(大成建設(株)は一部活動に協力)

一連の取組みはUNDB-J認定連携事業第6弾となっています。

事務局：大成建設株式会社環境本部

連絡先：〒163-0606 東京都新宿区西新宿1-25-1新宿センタービル